

サンフレッチェ広島 昨シーズンを振り返って

市長 皆さん、明けましておめでとうございます。まずは、昨年度大変素晴らしい成績を残された、サンフレッチェ広島の仙田社長に、昨シーズンを振り返ってのお話をお伺いできたらと思います。

仙田 ありがとうございます。私も昨年度は2022年のシーズンで、リーグ戦3位、天皇杯で優勝、ルヴァンカップで優勝という成績を勝ち取ることができました。これだけの成績を収めることができたのは二つの要因があります。一つは、ミハエル・スキッベというドイツから招聘した監督が、素晴らしいリーダーシップを発揮してくれたこと。それから二つ目は、ホームクラブで育った選手たちの活躍です。実は、トップで試合に出る登録選手の3分の1が、高校生のユースから上がってきた選手なんです。これはやはりJ1の中でも

特筆すべきところであり、彼らが懸命に命懸けで走り回って、得点を重ねてくれ、それをまた優れたリーダーシップで、監督が牽引してくれる。これがいかに相乗効果となり、このような成果を上げることができたと思っております。

市長 監督の続投も決まり、ぜひ今年は昨年以上の成績を残していただきたいと思えますし、我々もしっかり応援をさせていただきます。



スポーツの魅力

市長 皆さんに、それぞれの分野のスポーツの魅力についてお伺いします。

坂本さん、陸上の魅力とはどんなところですか。

坂本 大きいものから小さいものまで、いろんなロードレース大会がありますが、全て無料で見れるんですね。スタジアムなどでスポーツを観戦する場合はチケットを買うことになりますが、マラソンや駅伝は身近なところで開催されたりするので、ふらっと見に行くことができます。トップ選手の速さを間近で感じることもできます。また、走ることは教えられなくてもできますし、学校の授業やマラソン大会があつたりと、皆さんに根付いたスポーツだと思えます。さらに、最近はまだおこしにも貢献できるスポーツとしても盛り上がっていて、大会が開催される地域でおいしいごはんを食べるなど、応援に来た人にも付随した楽しみがある、すごく可能性のあるコンテンツだと思います。

市長 坂本さんはトップアスリートとして、オリンピック

クにも出ておられます。競技生活を振り返ってのお話と、指導者となった今、その経験がどう生かされているのか、お聞かせいただけますか。

坂本 好きで始めたことですが、仕事として何年も続けていると、もちろんしんどいこともあります。走れなくてしんどいときには、所属していた天満屋陸上競技部のスタッフが携わるクラブチームにふらっと行ったりしていましたね。日中仕事をしながら練習をしている市民ランナーの方や、楽しそうに走っている子どもたちを見てみると、それだけですごく元気が出て、走ることを楽しむという自分の原点に戻るような気がしていました。タイムを狙って走るだけでなく、純粹にランを楽しんでいる人は、私の心をほぐしてくれる存在でしたね。そんな経験があるので、今は勝負やタイムよりも、楽しく走ってくれたらいいなという指導をしています。

市長 仙田社長はいかがですか。

仙田 最近うちのコーチが、大体6歳までに体幹ができて上がるという話をしていましたが、例えばゴルフの石川遼選手にしても、野球の有名選手、有名コーチの息子にしても、小さい頃はサッカーをされていた例が多いです。サッカーは、全体でいろんなことをしなければならぬので、体幹が鍛えられ、どんなスポーツにも応用できる体づくりができていく、これはサッカーがそもそも持っている素晴らしだと思います。

もう一つ、私も「サッカーを学ぶ」ではなくて「サッカーで学ぶ」をキャッチコピーとしています。人格形成、友達同士の友情、年齢の離れた人との付き合い方、チームワークの形成の仕方など、スポーツを通してしか学べないことがありますよね。特にサッカーの友情は、一生ものですから。これらもサッカーの大きな魅力だと思っております。

指導・育成

市長 森岡監督は長く女子サッカーチームを指導されていますが、学生時代に海外に留学し、指導の勉強もされたと伺っています。海外で指導を学ばれて、日本に帰ってこられたときに感じたギャップなどがあればお聞かせください。また、それを今のチームの指導にどう生かしておられるのでしょうか。

森岡 もともと、選手としてアメリカの大学でプレーしていました。当時の大学の監督から本当にたくさんのことを学びましたが、一番の教訓は「決断させる」ということですね。当時大学で日本人初のキャプテンをやらせていただいたんですが、監督からはいつも「全て自分たちで判断させて、それがよかったのか悪かったのかを考えさせろ。決して先に答えを言つな。」と、言われていましたね。これが僕の指導の原点なの

で、選手時代も指導者となつた今も、もう我慢の連続です。

市長 女子ならではの難しさもあるのではないかと思います。

森岡 女子の選手は男子の選手と比べて真面目で、ほとんど自分を追い込みますね。女子の選手の方が指導しやすい反面、実は気に掛けて、準備やフォロウをしてあげないといけないんです。ですので最近思うのは、これからのスポーツはトレーナーがいないと成り立たないということですね。選手たちが本当に苦しくなったときに、指導者の力だけでは変えられないことを、トレーナーによってリカバリーすることができると感じていますね。

市長 サンフレッチェの選手名鑑を見ても、トレーナーさんの数がすごく多いですね。

仙田 はい。韓国代表チームのフィジカルトレーナー

をやっていた人間が、一昨年まで4年間ついてくれていました。その彼が、手術明けだった佐々木翔選手や、若手の森島司選手などの能力を上げてくれたので、フィジカルトレーナーは非常に大事だと思います。

市長 坂本さんは、小さい子どもから高齢の方まで幅広く指導されている中で、気を付けておられることはありますか。

坂本 そうですね。皆さんやはり好きがゆえにたくさん走ってしまうんですね。特に子どもは、成長過程の中で膝やかかとが痛くなる場合も多いので、こちらがストップをかけ、今だけじゃなく、その先のことも見ないといけないという話をすることもあります。これは大人も一緒で、皆さん頑張り過ぎてしまふんですが、休むことも練習なんですよね。ケアの仕方を知らない人に対しては、ケアの仕方や状態に合った練習方法、楽に走れるポイントなどの

提案もしています。それこそ考えさせるじゃないですが、できれば皆さんに考えてもらって、何かつまずいたときには、こちらが選択肢を提供する、そういう指導は心掛けていますね。

地域との関わり

市長 皆さんは、スポーツ教室などを通じて地域との関わりも随分深められていると思います。

